

平成 2 9 年度学校評価自己評価表

福島県立福島南高等学校

学校経営運営ビジョン		自己点検（実施状況と評価）				アンケート集計結果			分析と課題			
重点努力事項		４段階評価　４◎：８０％以上達成　３○：６０％以上達成　２△：４０％以上達成　１▼：２０％以上達成				評価点	平均	判定		４段階評価		
										生徒	保護者	教職員
文理科目標	１　難関大学、国公立大学等への合格者の増加 ・国公立大学等の合格者数の増加を目指します。 ・センター試験の受験を奨励するとともに、各種試験の受験指導に努めます。	進路決定者数(2/7現在):国立大10,私大22,公短1,私短1,看医専4,専門3,就職1,未定36 ・年間を通して、各学年ごとに課外授業ならびに模擬試験を実施し、基礎学力の定着を図った。 ・個人レベルでの指導を含め、状況に応じた必要な指導を実施し、一定の成果を得ることができた。 ・各種オープンキャンパス等への積極的な参加により、個別のニーズに応じた進路選択ができた。				3.0	3.0	○	3.1	3.0	2.9	・今後も進路指導部の企画を活用しながら、早期の進路意識の形成と進路目標の決定、さらにはその実現に向けた取り組みをサポートする。 ・受験科目と教科の指導が十分にかみ合わなかった場合がみられ、今後、生徒への指導を含め、より効率的な学習指導に努める。
	２　総合的、専門的な学習の深化 ・授業やサイエンスセミナー等を通して、文理の学問的な探究心を伸ばします。	・サイエンスセミナーを通して、探究的な学習に取り組み適切な指導のもと一定の成果をあげることができた。 ・教科の協力を得ながら、不足しがちであった課題研究の時間を確保することができた。				3.0						・サイエンスセミナー継続の指示を受け、本年度の反省を踏まえ、各教科の協力を得ながら、より充実した課題研究を目指すとともに、その成果を発信する機会を広げて行きたい。
国際文化科目目標	１　語学力を生かした難関大学等への合格者の増加 ・難関大学等の合格者数の増加を目指します。 ・英検２級の合格者を増やし、仏検、GTEC、TOEIC等に積極的に挑戦させます。	進路決定者数(2/7現在):国公立大3,私大16,公短1,私短5,看医専2,専門2,公務員1,就職1,未定10 ・英検では、第2回までで、２級30名、準２級17名の取得者が出た。(２級30名は第2回としては過去5年で最高的人数、昨年より14名増である) ・仏検では春期秋期合わせて、4級4名、5級19名の合格者を出すことができた。				3.0	3.5	○	3.4	3.3	3.0	・今後、外部の語学検定試験が大学入試にますます使われるようになるので、さらに取得を目指しての指導を展開する。 ・外国人との交流の機会をできるだけ作り、コミュニケーションツールとしての外国語の学習に力を入れる。 ・様々な外国に目を向け、グローバルなものの考え方を培う。
	２　国際理解教育や国際交流事業の充実 ・国際理解セミナーやKGG姉妹校交流などの充実に努めます。	・ブリティッシュヒルズ研修では、様々な体験学習を通して、英国文化に触れることができた。 ・KGS姉妹校交流は、事前学習、事後の発表も含め、有意義な経験にすることができた。 ・国際理解セミナーでは、福島在住のカナダ人の先生から話を聞いて、グローバルな視野を持つ大切さや福島から発信することの大切さを学んだ。				4.0						・ブリティッシュヒルズ、KGS姉妹校交流、国際理解セミナーに対し、さらに事前事後研修を充実させより実りのあるものにする。マナー面の研修も行いたい。 ・県の英語弁論大会（４位）、商業高校のスピーチコンテスト（出場）があったが、日頃の成果を試す良い機会なので、多くの生徒にチャレンジさせたい。
情報会計科目目標	１　高い課題意識と資格取得を生かした就職、進学の合格者の増加 ・高度な専門的資格を取得させ、就職、公務員、国公立大学に合格させます。 ・商業関係の各種競技大会へ積極的に参加させ全国大会への出場を果たします。	進路決定者数(2/7現在):国公立大3,私大16,私短3,専門13,公務員6,就職25,未定10 ・情報処理検定や簿記検定では、年間計画の通り検定前に養成講座を実施し、例年並みの合格者をだすことができた。 ・平日遅くまで、また休日にも熱心に面接指導にあたるなど生徒の希望進路実現に努めた。				3.0	3.0	○	3.4	3.4	3.3	・２月に実施される日商簿記検定２級出題区分が昨年度より改定し、検定の難化が予想され、その対策を講じる必要がある。 ・次年度も生徒の進路実現のため学科一丸となり、よりきめの細かい指導を図りたい。 ・次年度も高度資格取得に取り組むとともに、外部講師を効率よく活用して社会で活躍できる生徒を育成する。
	２　地域産業を担う人材育成教育・事業の充実 ・地域づくりセミナー等を通して課題意識を高めます。	・地域づくりセミナー・年金セミナー・租税教室など外部講師を招き、有意義な学習の機会を得ることができた。 ・ビジネスコミュニケーション検定にほぼ全員合格を果たしたり、社会人としてのより実践的な学習を実施することにより、ビジネス社会に必要な知識・技術を身に付けさせることができた。				3.0						・一昨年から地域づくりセミナーの予算がなくなり、実施回数を1回に減らしクラス費から経費を捻出した。次年度検討したい。 ・社会において主体的・合理的に活躍できる生徒を育てるため、次年度も様々な形でアクティブラーニングを取り入れた活動を実施したい。
共通目標	１　生徒の生活習慣を確立させ、規範意識を高めます ・あいさつや制服の正しい着こなし、遅刻防止、全員清掃等の、生活習慣を確立させます。 ・いじめ等の非行防止を徹底します。	・後期中間までの遅刻者数の延べ人数は374人。遅刻者数が前年より半減しており指導の成果が出ていると思われる。昇降口指導等の成果により、制服の着用に関しては概ね良好である。(生徒指導部) ・清掃日誌の活用と全員清掃はよくなされているが、廊下や階段のゴミが目立つところがある。(厚生部) ・6月、9月、11月に「学校生活アンケート」を実施。アンケート結果を踏まえ、全校集会時や学年による指導を行った。アンケートの成果で早期発見の事実があり対処することができた。(生徒指導部)				3.0	3.2	○	3.5	3.5	3.2	・次年度においても、今年度同様に遅刻者数の減少を目指す。また、生徒のさらなる生活習慣の改善を目指し、継続して遅刻指導等を行う。 ・清掃用具の点検・整備に努め、廊下等の清掃区域の境界を明確にする。 ・次年度も同様に年間で３回の学校生活アンケートを実施予定。いじめ等の防止、早期発見に努める。
	２　生徒の自主的活動により、学校生活の充実に図ります ・部活動の自主的な活動を充実させます。 ・公開文化祭や委員会活動を充実させます。	・今年度の新たな取り組みとして、夏季研修、ピブリオバトルを開催した。どちらも開催して良かったとの感想があったので、次年度以降も継続していきたい。(図書視聴覚部) ・生徒保健委員会の11月の発表は各方面で好評であった。(厚生部) ・最上級生として部活動、委員会活動に積極的に取り組んでいた。また煌南祭や創立30周年行事では上級学年として中心で活動し十分な成果を上げた。(3学年)				4.0						・新しいイベントを盛り込んだ年間計画を明確にし、また、それによって生徒たちが本への関心を高め、意欲的に活動できるように支援する。 ・各種行事への取り組み姿勢が生徒によって温度差がある。対人交流が苦手な生徒も積極的に参加できる雰囲気づくりが重要である。
	３　生徒の安全・防災意識と健康意識を高めます ・交通安全意識を高め、自転車事故等の絶無を目指します。 ・教育相談や保健指導の充実に努め、生徒が自らの健康を保持増進する力を高めます。	・交通安全指導年5回計10日間、下校指導6回実施。春期に自転車事故が重なっておきてしまった。(生徒指導部) ・むし歯の治療率72％で目標には至らなかったが高い水準であった。防災避難訓練は、2回とも速やかな避難ができた。(厚生部) ・4月に1年生対象、12月に2年生対象のSC講話を実施し、アンケート結果でどちらも好評であった。(教育相談部)				3.1						・全校集会での指導や自転車走行一斉指導などで年間を通して事故がなくなるように指導の強化を図る。 ・むし歯治療率のさらなる向上を目指して指導を継続していく。 ・生徒・教職員に対して、教育相談に関する情報を効果的に発信する。全職員がチームとして生徒支援にあたれるよう、教育相談に関する校内体制の強化を図る。
	４　生徒の自ら学ぶ態度を育成します ・家庭学習や朝自習に積極的に取り組ませ、自学自習の態度を養います。 ・総合的な学習の時間や課題研究での探究的な学習への支援を充実します。	・課題や確認テストを実施して学習の習慣化を促したが、授業以外の学習量が少ない。また、授業の準備をはじめ、取りかかりが遅い傾向にある。(2学年) ・定期考査期間中、生徒に学習計画表を作成させた。また、学年集会や各HRでの指導により意識の高揚を図った。(1学年) ・サイエンスセミナーを通して、探究的な学習に取り組み適切な指導のもと一定の成果をあげることができた。教科の協力を得ながら、不足しがちであった課題研究の時間を確保することができた。(文理科)				3.0						・3.0 3.1 2.9 ・基本的な指導を繰り返し、家庭学習時間の確保と学習の質の向上を支援する。 ・予習・復習を行う習慣が身につくよう、各教科と連携を図る。課題等の提出についても、クラス担任も情報を共有し、「必ず提出する」指導を行う。 ・各教科の協力を得ながら、より充実した課題研究を目指すとともに、その成果を発信する機会を広げて行きたい。
	５　読書活動と図書館利用を推進します ・読書のPRの工夫、授業やHR等との連携を進めて、図書館利用や読書量の増加を図ります。	・4月～1月までで、一日平均入館者数はH28年度:41.3人、H29年度は43.87人と微増。一人当たりの年間貸出冊数はH28年度:3.731冊、H29年度は5.217冊と増加した。(図書視聴覚部) ・授業に関連した書籍を紹介するコーナーを図書館内に設置し、利用の促進を図った。(国語科)				3.0						・2.7 2.6 2.7 ・図書の内容に関する情報提供についてさらなる工夫を重ねていく。また授業における図書館の利用促進を図るため、LHRの年間計画に各クラスの利用割り当てを入れてもらう。
	６　体験活動を通して豊かな情操や国際理解を養います ・芸術鑑賞会や海外修学旅行等の体験活動を通して、生徒の情操を高め、国際的な視野を広めます。	・ミュージカルを鑑賞して、芸術的な感性を高めることができた。(図書視聴覚部) ・ブリティッシュヒルズ研修やKGS姉妹校交流では、事前学習、事後の発表も含め、様々な体験学習を通して、有意義な経験にすることができた。(国際文化科) ・事前の講演会や調べ学習、準備等も含めて、台湾の文化や歴史を知る機会となり、生徒の感想も良好であった。(2学年)				3.3						・3.3 3.3 3.3 ・アンケートの結果から30年度の芸術鑑賞会は落語となったので、公演内容を細かく検討していく。今後、福島市公会堂が利用できないので、31年度以降の実施について（特に演劇）場所の検討が必要である。 ・ブリティッシュヒルズ研修やKGS姉妹校交流では、さらに事前事後研修を充実させより実りのあるものにする。マナー面の研修も行いたい。
	７　各学科の特色を生かして創造性を養います ・各学科の特色ある教育活動を充実させます。 ・各学科の学習成果を共有させ視野を広げます。	〔各学科の目標2参照〕				3.3						・3.2 3.1 3.0 〔各学科の目標2参照〕
	８　授業等の充実に努め、学力向上を図ります ・基礎基本を定着させ、応用力を高めます。 ・教員相互の授業参観、授業研究を充実し、教科指導力の向上に努めます。	・定期考査の問題作成や採点の際に、年間を通じて相互的な指導が行われた。(教務部)				3.0						・3.1 3.2 3.2 ・南高へ行こうなどの機会を利用して、アクティブラーニングを取り入れた授業について相互的な指導・研究を行ってもらう。
	９　進路希望を100％実現します ・進路実現の実力を養成する課外学習、模擬試験、検定試験にも積極的に取り組ませます。 ・キャリア教育を充実し、保護者との連携を深め、きめ細かい進学・就職指導を実施します。	進路決定者数(2/7現在):国公立大16,私大54,公短2,私短9,看医専6,専門18,公務員7,就職27,未定56 ・各学年とも、課外の出席状況は良好である。(進路指導部) ・朝自習課題は夏休み前まで曜日で学習教科を決めて実施した。(3学年) ・職業体験を聞く会は、生徒の職業観の育成や進路意識の高まりに繋がった。(1学年) ・長期休業中に3者面談を行ったり随時相談に応じたりして、進路希望未定者は減りつつある。(2学年)				3.0						・3.3 3.2 3.1 ・春休みの集中学習会の位置づけを検討していく。 ・重点教科を集中して朝自習で行うことも一つの手立てである。また、後半は各自進路に応じた完全自習ができればさらに効果が上がると考える。 ・教室用進路資料等を活用し、学びの森やLHRを通して進路意識を高める。 ・引き続き面談を実施するとともに、情報収集を支援することで、進路希望を早期に確定させ、学習へのモチベーションを上げさせる。